

自分らしさって何？

槇原敬之氏作詞・作曲で、SMAPが歌う「世界にひとつだけの花」という歌にこういうフレーズがある。

「NO. 1にならなくていい もともと特別なONLY ONE」

人それぞれに違いがあり、個性があるのだから、みんなが同じ土俵で一番を目指さなくていいんだよ。自分らしくあったらいいんだよ。というような歌詞だったと思う。

とても素晴らしい歌で、聞く人を安心させられる歌だ。現在の競争社会、弱肉強食の世界で、「別にいいんだよ。ある面では他の人が秀でてるかもしれないけど、見方を変えれば自分が秀でているところがきっとあるんだよ。」と慰められる気がする。

しかし、ふと考える。「自分らしさって何だろう？個性って何だろう？」

はっきりと言葉にできる人が何人いるだろう。実際、僕は答えられない。ということは自分は個性のない人間なのだろうか？

僕はこう考える。自分らしいことは大事だし、個性を尊重しなければならない。では、人とは違ったことをすることが良いことなのか？他の人とは違うファッションをする。他人がやらないことをすれば偉いのか？

「個性、自分らしさ」を重視すると、人と同じことをすることが下手をするとだめなことのように評価される。

しかし、作文を書くときに「何でも良いから好きなように書きなさい」と言って何人の人が書けるだろう？

ここで「学ぶ」の語源をひもといてみる。マナブはもともと「マネブ」であったという。要は「真似をする」ということだ。

古代中国の書物「論語」には、「温故知新」という言葉がある。「故きを温ねて新しきを知る」つまり先人の知恵や学問を大事に研究して学べば、新しい発見や知識が身につくだろう、ということだ。

さらに、武道の世界の言葉に「守 破 離」とある。最初は師匠の教えを守り精進すること。のちに教えを破ろうと努力してみなさい。そうして師匠から離れ、自分の流儀を開くことができる、と。

どれも、はじめは「真似することから始めなさい」という言葉だ。

作文でも、「好きなように書きなさい」ではなくて、今までの歴史の中で「これは良い、美しい文だ」と呼ばれたものをまず学ぶ。つまり、たくさん本を読んでいる人が、良い作文を書けるのはそういうことだ。

今まで良いと言われてきたもの、多くの人が認めたものをまずは真似てみる。それでよいのではないか？そうしていろいろ知識を増やし、力を蓄えた上で、「自分らしさ、個性」を探してみるのも良いのではないだろうか。

「自分らしさ、個性」を大事にと叫ばれている世の中で逆行している考え方もかもしれないが、人の真似を完璧にすることもなかなか難しいことだと思う。

「真似」から始めることが、「自分らしさ、個性」を身につけるために一番の近道かもしれない。